

アンズイソギンチャク

イソギンチャク目ウメボシイソギンチャク科

石川県カテゴリー

地域個体群

Aulactinia coccinea (Verrill) sensu Uchida and Soyama

国カテゴリー

なし

選定理由

県内での分布が限定されているため。

形態

体壁は暗緑色とベージュの縞模様、触手と口盤は一様に赤色で、体壁にはややまばらに吸着イボがある。このイボはかなり大きく、良く目立つが吸着力は弱い。

国内分布

長崎および瀬戸内海に分布する。

県内分布

九十九湾で多く見られる。また、七尾の百海でも少ないが生息している。外浦海岸での情報は無い。

生態

長崎および瀬戸内海では水深数mの岩礁にみられるとされている。本県でも内浦沿岸の水深2～3m以深の岩礁に着生しているのが見られるが個体数は少ない。飼育すると、夜間に触手を広げることが多い。また、胃腔や触手内でプラナリア幼生が見つかることがある。

生息地の条件

波あたりのやや強い岩礁地帯の遮蔽部。

生存の危機

人為的な構築物などにより生息地が脅かされているようである。

特記事項

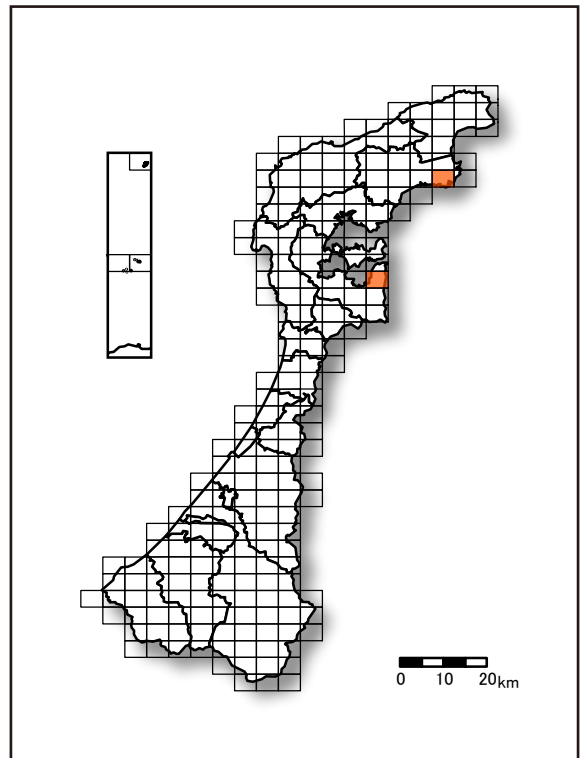
本種の学名はあくまでも内田・楚山(2001)のイソギンチャクガイドブック(TBSブリタニカ)に記載されたアンズイソギンチャクに適用されたものであり、その分類学的位置づけは不明瞭である(千葉県立中央博物館海の博物館、柳研介研究員からの私信)。

参考文献

内田紘臣・楚山勇. 2001. イソギンチャクガイドブック. TBSブリタニカ



写真提供者: 岡本武



県内の分布